

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 17 年 5 月 26 日 (2005.5.26)

【公開番号】特開 2001-268158 (P2001-268158A)
 【公開日】平成 13 年 9 月 28 日 (2001.9.28)
 【出願番号】特願 2000-80155 (P2000-80155)
 【国際特許分類第 7 版】

H 0 4 L 29/08
 H 0 4 L 1/00
 H 0 4 L 12/50
 H 0 4 M 11/00
 H 0 4 N 1/00
 H 0 4 N 1/32
 H 0 4 N 1/387

【F I】

H 0 4 L 13/00 3 0 7 C
 H 0 4 L 1/00 E
 H 0 4 M 11/00 3 0 3
 H 0 4 N 1/00 1 0 6 A
 H 0 4 N 1/32 J
 H 0 4 N 1/387
 H 0 4 L 11/20 1 0 3 A

【手続補正書】
 【提出日】平成 16 年 7 月 26 日 (2004.7.26)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【書類名】明細書
 【発明の名称】ファクシミリ装置
 【特許請求の範囲】
 【請求項 1】

自動応答機能および Caller ID を検知する機能を有する外付け電話が接続されたファクシミリ装置であって、Caller ID を検知する手段と、検知した Caller ID により相手先の通信機種を判断しうる手段を備え、前記外付け電話が 1 次応答した後に、前記 Caller ID を検知する手段が、相手先の Caller ID を検知した場合、前記検知した Caller ID により相手先の通信機種を判断しうる手段が、相手先の通信機種がファクシミリであると判断した場合には、CML (Connect Modem to Line) を切り替えてファクシミリ受信することを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項 2】

Caller ID とそれに対応した通信機種の情報を記憶する手段を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載のファクシミリ装置。

【請求項 3】

Caller ID と対応した通信機種の情報を Caller ID 毎に設定する手段を有し、機種の判断はその設定情報を基に行なうことを特徴とする請求項 2 に記載のファクシミリ装置。

【請求項４】

受信時ＣＮＧを検知する手段と、その検知結果をＣａｌｌｅｒ ＩＤに対応して記憶する手段を有し、機種判断は前記ＣＮＧ検知の有無を基に行うことを特徴とする請求項２に記載のファクシミリ装置。

【発明の詳細な説明】**【０００１】****【発明の属する技術分野】**

本発明は、ファクシミリ装置に関する。

【０００２】**【従来の技術】**

従来、自動応答機能を有する外付け電話が接続されたファクシミリ装置では、相手方からの通信がファクシミリ送信であった場合でも、先に外付け電話で受信してしまって正常なファクシミリ受信ができない。その一方で、相手先からの通信が電話であった場合にも、ファクシミリが応答してしまうこともあった。

【０００３】

このように、従来装置では、通信の相手先に適応した電話／ファクシミリの切り替えが瞬時に行えず、最適な通信手段の切り替えにはある程度の時間を要するものであった。

【０００４】**【発明が解決しようとする課題】**

本発明は、自動応答機能を有する外付け電話が接続された状態であっても、相手方の通信機がファクシミリであると判断した場合には、良好な状態でファクシミリ受信できるファクシミリ装置を提供することを目的とする。

【０００５】**【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成するために、本発明によるファクシミリ装置は、次のような特徴を備えている。

【０００６】

本発明は、自動応答機能およびＣａｌｌｅｒ ＩＤを検知する機能を有する外付け電話が接続されたファクシミリ装置であって、Ｃａｌｌｅｒ ＩＤを検知する手段と、検知したＣａｌｌｅｒ ＩＤにより相手先の通信機種を判断しうる手段を備え、前記外付け電話が１次応答した後に、前記Ｃａｌｌｅｒ ＩＤを検知する手段が相手先のＣａｌｌｅｒ ＩＤを検知した場合、前記検知したＣａｌｌｅｒ ＩＤにより相手先の通信機種を判断しうる手段が、相手先の通信機種がファクシミリであると判断した場合には、ＣＭＬ（Ｃｏｎｎｅｃｔ Ｍｏｄｅｍ ｔｏ Ｌｉｎｅ）を切替えてファクシミリ受信することを特徴とする。

【０００７】**【発明の実施の形態】**

以下、図面を参照して、本発明の実施の形態を詳細に説明する。

【０００８】**実施の形態**

図６は実施の形態にかかるファクシミリ装置の接続例を示す概念図である。

【０００９】

このファクシミリ装置（図ではファクシミリ機能を備えた複合機を示す）１には、自動応答機能（留守番電話機能）およびＣａｌｌｅｒ ＩＤを検知する機能を有する外付け電話２が接続される。そして、ファクシミリ装置１は局交換機３を介して相手方のファクシミリ装置４と接続される。ファクシミリ装置１は、相手機のＣａｌｌｅｒ ＩＤとそれに対応する機種情報を記憶する手段と、受信したＣａｌｌｅｒ ＩＤにより相手機種を判断しうる手段を備えている。

【００１０】

実施の形態のファクシミリ装置では、予めユーザーにより発呼側のＣａｌｌｅｒ ＩＤ

に対応する機種情報が入力されて、記憶されており、図 7 に示すように、着信があると、外付け電話が 1 次応答（ステップ S T 3 1）した後に、相手機の C a l l e r I D を検知（ステップ S T 3 2）し、相手機がファクシミリであるか否かを判断する（ステップ S T 3 3）する。ここで、相手機がファクシミリであると判断した場合には、C M L（C o n n e c t M o d e m t o L i n e）をファクシミリに切り替えて（ステップ S T 3 4）、ファクシミリ受信が開始される。一方、相手機がファクシミリでないと判断した場合には、C M L の切替えは行わずに（ステップ S T 3 5）、外付け電話で受信される。

【 0 0 1 1 】

実施の形態のファクシミリ装置は、相手機の C a l l e r I D とそれに対応する機種情報を記憶する手段を備えているため、受信した C a l l e r I D により相手機種を判断する処理（ステップ S T 3 1 からステップ S T 3 5 までの処理）を瞬時に行い、正常なファクシミリ受信を可能とする。

【 0 0 1 2 】

以下、図 8 に示すシーケンス図を用いて実施の形態にかかるファクシミリ装置の動作を説明する。

【 0 0 1 3 】

まず、交換機からの 1 次呼び出しがあると、外付け電話 2 が 1 次応答する。この後に、交換機からの C a l l e r I D が検知される。この C a l l e r I D により相手機がファクシミリであると判断した場合には、次の交換機からの 2 次呼び出し時に、C M L をファクシミリに切換え、ファクシミリ装置 1 で応答し、ファクシミリ受信が開始される。

【 0 0 1 4 】

【 発明の効果 】

本発明によれば、自動応答機能を有する外付け電話が接続された状態であっても、相手先の通信機がファクシミリであると判断した場合には、良好な状態でファクシミリ受信できるファクシミリ装置を提供することができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 図 1 】 実施の形態にかかるファクシミリ装置の接続例を示す概念図である。

【 図 2 】 実施の形態のファクシミリ装置の動作を説明するためのフローチャートである。

【 図 3 】 実施の形態のファクシミリ装置の動作を説明するためのシーケンス図である。

【 符号の説明 】

- 1 , 4 ファクシミリ装置
- 2 外付け電話
- 3 局交換機
- 1 1 搬送スキャナ部
- 1 2 画像記憶部
- 1 3 拡大縮小部
- 1 4 スムージング部
- 1 5 参照画像情報記憶部
- 1 6 スムージング後画像情報記憶部
- 1 7 N C U
- 1 8 プリント部

【 手続補正 2 】

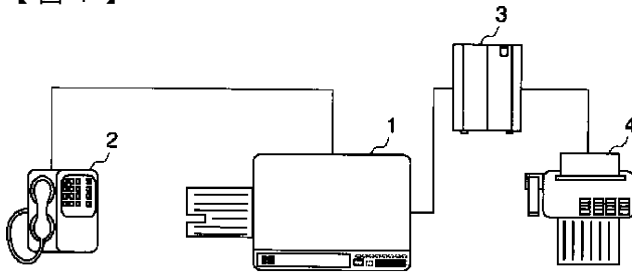
【 補正対象書類名 】 図面

【 補正対象項目名 】 全図

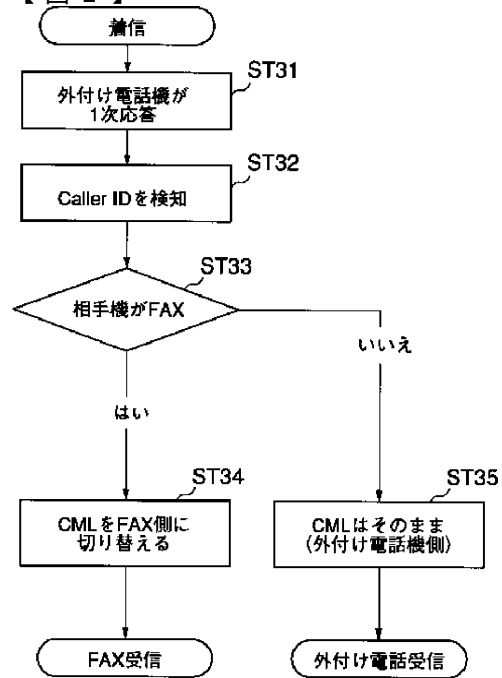
【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【図1】



【図2】



【図3】

